



復元した蓄音機

価値ある機器 次世代に伝える

大量生産・大量消費の時代から資源の節約、省エネルギーの時代が変わった今、昭和年代に作られた電子機器、機械装置が廃棄されてきています。これらの機器のほとんどは故障しても、サービス部品がなく、メーカー修理もすでに打ち切られているからです。



私も「親の形見なのでぜひ直したい」「30年前に愛用していたので、もう一度使いたい」といった声を多く聞くので、蓄音機、真空管ラジオ、テープレコーダーなど「アンティーク機器の再生復元サービス」を始めました。技術士の専門性を生かし修理、性能復元に取り組んでいます。例えば、米国からノックダウンで輸入された蓄音機「ビクトロラ」は発売から80年程度経過していますが、今でも当時の音質と遜色なく復元できます。復元過程で、当時の技術者が考えに考え抜き知恵を絞って工夫した跡が見えてきて楽しい発見もあります。復元修理の依頼は北海道から沖縄まできており、この4年余で数百台を復元しました。

電子機器の場合は、主要部品が真空管、トランジスタ、IC、LSI、システムLSIと変化してきましたが、部品の共有化が図れているのは真空管、トランジスタまで。IC以降は修理も不可能になり、まさに使い捨ての商品となっています。技術者が「精魂こめて創った技術製品、をこれからも復元再生し、次の50年、100年と使っていただくお手伝いをしていきたいと思っています。

身近で活躍する技術士

オールジャパンコム社長 町田光三氏(応用理学、電気・電子)